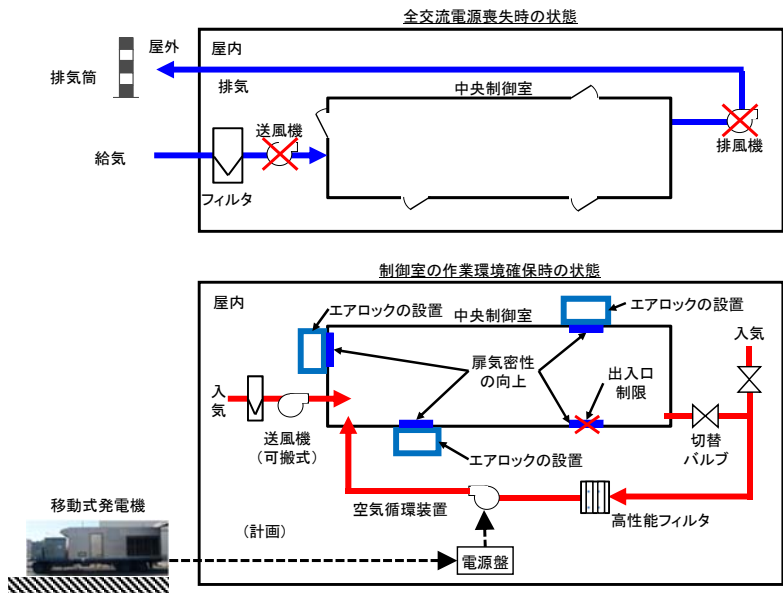


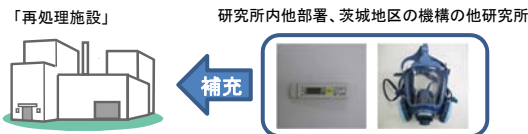
1. 制御室の作業環境の確保

○中央制御室の換気系は、外気をプレフィルタ及びエアフィルタ(高性能フィルタ)でろ過した後給気しており、再循環系を有していない。全交流電源が喪失した場合には、給排気は停止。
 ☆中央制御室の汚染防止対策として、中央制御室への出入扉へのドアパッキン施工等により気密性を向上させるとともに、出入口を限定し、出入りする扉にはエアロックを設け、汚染を持ち込まない措置を講じる。
 ☆中央制御室内の空気を浄化し循環する方法について検討し、本年度末を目途に設備を設置し、緊急時においても電源供給できるような措置を講じる。

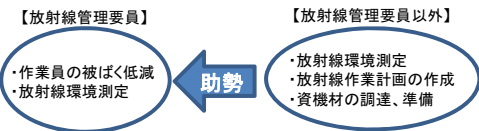


3. 高線量対応防護服等の資機材の確保及び放射線管理のための体制の整備

○高線量の汚染環境での作業を行うため、全面マスク、半面マスク、鉛エプロン、防護服、個人線量計、放射線測定器等を常備。不足した場合は、研究所内他部署又は茨城地区の機構の他研究所から補充する。



○放射線管理要員は交替勤務を行っており、また、各工程の監視・運転員も、放射線作業の教育を受け、経験を有していることから、緊急時の放射線作業体制は整っている。
 放射線管理要員が不足する場合は、研究所内他部署又は茨城地区の機構の他研究所からの助勢を受ける。



○東海地区18原子力事業所間では、協定により緊急事態が発生した場合に相互に協力する体制が整っている。

☆高線量下での作業性を向上させるため、鉛エプロン装着時の通気性及び耐久性に優れた防護服を配備する。
 高線量に対応する防護装備については、遮へい能力、重量、大きさ等から作業性を考慮し、適切な装備(タングステン製、鉛製)を追加配備する。

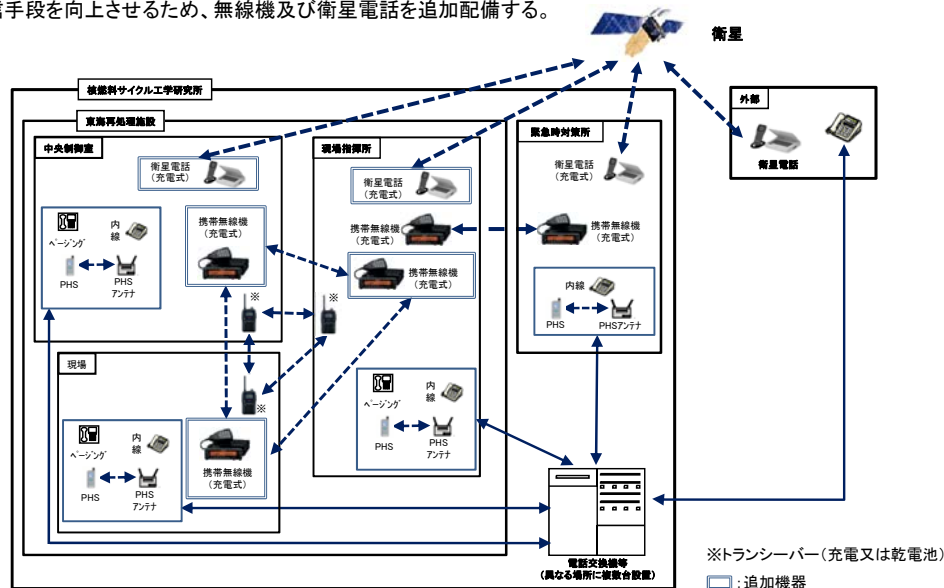


防護服および、鉛エプロン(鉛当量0.25~0.5mm)の例

2. 緊急時における再処理施設内通信手段の確保

○全交流電源が喪失した場合でも、トランシーバー及び無線機により、現場、中央制御室、現場指揮所及び緊急時対策所間の通信機能を確保している。
 ○トランシーバー及び無線機は移動式発電機からの給電を受けて中央制御室において充電可能。
 ○全交流電源が喪失した場合の照明確保のため、移動式発電機からの給電により使用可能なライト、乾電池式のヘッドライト及び携帯式ライトを配備している。

☆通信手段を向上させるため、無線機及び衛星電話を追加配備する。



4. がれき撤去用の重機の配備

○全交流電源が喪失した場合に行う電源ケーブルの敷設、冷却水の供給のためのポンプ車(消防車)の通行及びホースの敷設等の作業において、がれき等の障害物の撤去をより効果的に行う必要がある。
 ☆がれき等を撤去するため、ホイールローダ及び油圧ショベルを各1台配備する。重機は津波の影響を受けない高台に配備するとともに、運転操作を実施できる体制を整備する。



ホイールローダの例

写真出典
コベルコ建機
株式会社カタログ



油圧ショベルの例

写真出典
キャタピラー・ジャパン
株式会社カタログ

仕様	ホイールローダ例	油圧ショベル例
全長	約4m	約5m
全幅	約1.5m	約1.5m
全高	約2m	約2.5m
重量	約3t	約3t
最大掘起力	約30kN(3t)	-
燃料タンク容量	約40L	約40L

シビアアクシデントへの対応に関する措置の実施状況